

事業実施報告書

小学生わくわく里山キャンプ
2015夏休み・ふるさとステイ！

2015年8月吉日

事業実施報告書

認定NPO 法人地球市民の会
理事長 山口 久臣

1. 団体名

主催：認定NPO 法人 地球市民の会

後援：佐賀県、佐賀市、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、福岡市教育委員会

協力：株式会社 増屋 様 ヤマダ電機テックランド福岡賀茂本店 様
ユニカレ佐賀 様

2. 事業名称

小学生わくわく里山キャンプ 2015夏休み・ふるさとステイ！

3. 事業実施経過

4月 事業実施地にて事業説明、日程調整、協力依頼
事業計画打ち合わせ

5月 事業実施地代表者とのプログラム打ち合わせ
プログラム作成、参加者募集チラシ作成
日程の調整

佐賀県・佐賀市・佐賀県教育委員会・佐賀市教育委員会・福岡市教育委員会への後援依頼

6月 佐賀市内全小学校へのチラシ配布

福岡市内（早良区・城南区）小学校へのチラシ配布

各種手配・調整（バス借り上げ、食事手配、講師依頼と手配等）

サポーター募集

7月 事業運営スタッフやサポーター事前打ち合わせ

参加者確定

参加者の各家庭への通知書発送と手続き（保険、健康調査票管理、参加費手続き等）

サポーター用パンフレット作成

事前準備

4. 実施内容

(1) 目的

当法人は2009年より佐賀北部の山間部において地元の方々と協働で地域づくりを行なってきた。その中で住民との話し合いを通してもっと多くの方に来てもらいたいという要望があり、小学生を対象としたキャンプ事業立案に至り、今回で4回目の実施である。

この事業は自然を通し、地元の方々と触れ合い、学びのある青少年の健全育成を目的としている。

町（都市）部に生活する子どもたちが、日本の自然を支え、日本人の「こころ」の原風景である中山間地の里山の魅力を感じ、その意味を学ぶ。

見知らぬ地で地元の人との交流を通して世代を超えた人への関心を高め、今後も継続的に里山を訪れることや地元の人に会いに行くなどの絆づくりも期待できる。

(2) 概要

今回、この事業を実施するにあたり、小学校全学年を対象にし、佐賀市内と福岡市（早良区・城南区）から募集をかけたところ、総数123名の申込があった。そして7月28日（火）～7月30日（木）までの期間を佐賀市三瀬中鶴地区で実施し、8月1日（土）～8月4日（火）までの期間を佐賀市富士町関屋地区で実施した。中鶴地区の日程は台風により実施を順延した。期間中は佐賀市役所または早良区ヤマダ電機テックランド福岡賀茂本店第3駐車場を集合・解散場所とし、毎日送迎のバス・車を手配した。

子供たちの滞在日は一泊二日から二泊三日までとし、期間中どの日程からでも参加可能とした。プログラムはAコース（里山自然体験どっぷりプラン）、Bコース（里山の暮らしを楽しむプラン）の2コースを準備し、日替わりでA・Bコースを展開し、両コース共に事業実施地である中鶴・関屋集落ならではの資源を生かした自然体験活動プログラムを実施した。

事業運営のサポーターとして、大学生以上の男女の募集を募った。

(3) 日程

①三瀬中鶴プラン：7月28日（火）～7月30日（木）（3日間）

②富士町関屋プラン8月1日（土）～8月4日（火）（4日間）

5. 事業実施地と活動内容

(1) 三瀬中鶴地区

施設は中鶴公民館で、参加者児童数は二泊三日の参加者を含めた延べ人数で65名、運営スタッフは毎日8～12名で実施した。中鶴自治会の地域の方々のご協力があり、食事の準備や安全管理面でのサポートを頂いた。

（２）富士町関屋地区

施設は関屋公民館で、参加者児童数は二泊三日の参加者を含めた延べ人数で79名、運営スタッフは毎日10～15名で実施した。関屋自治会と地域の方々のご協力があり、安全管理や「命の授業」で鶏の捌きの実施などのサポートを頂いた。

活動時は4～6名程度の班を複数つくり、各班にサポーターが1名ないし2名付くようにした。また、班長・保険係・生活係・食事係の役を設け、子供達の責任感の育成と自発的な行動を図った。

① Aコース（里山自然体験どっぷりプラン）について

三瀬村中鶴地区：7月28日（火）～7月29日（水）

富士町関屋地区：8月1日（土）～8月2日（日）、8月3日（月）～8月4日（火）

自然体験をメインとし、魚釣りや昆虫採集、懐中電灯なしの暗闇探検を行った。魚釣りは初体験の児童も多く、エサ探しから始まり、生きたミミズを釣り針に通す作業は嫌々ながらも頑張っていた。その分、魚が釣れた時の喜びは大きかったようで、最終日に書かせた感想文でも魚釣りを題材にする子が多く見られた。

暗闇探検の目的は、普段、街灯に囲まれた生活をしている子ども達に、本当の夜の暗闇について、また暗いからこそ感じる自然の様々な風景や星空について、体感してもらいたいと思い企画した。街灯のない暗闇の中を、懐中電灯を付けずに散策することに、当初は緊張していた子ども達であった。だが次第に暗闇に慣れてくると、ホタルや川の音など、聞こえてくる自然界の様々な表情や一面の星空に大変喜び、楽しそうに活動していた。子ども達は最初こそ暗闇を怖がっていたが、一緒に花火を行い、蛍を見つけたことによって暗闇の良さを感じ、子ども達同士の親睦も深まったようだった。



ミミズいるかな～



これで準備万端！つってこーい！

② Bコース（里山の暮らしを楽しむプラン）について

三瀬村中鶴地区：7月29日（水）～7月30日（木）

富士町関屋地区：8月2日（日）～8月3日（月）

里山の暮らしを地元の方と一緒に作業を行い、楽しめるプログラムを組んでいる。うど

ん作り（三瀬）では普段食べられる状態のうどんを調理・準備・片付けを一から地域の方たちとお話をしながら楽しく作業を行えた。自分たちでつくったうどんは格別に美味しかったのかすぐに完食した。落雁作り（富士）も地元の方の指導の元、作業が行えた。お盆の時期でもあり、地域で受け継がれている落雁をお供えする風習を子供たちは学べた。また、自分が作ったものを各家庭に持ち帰ってもらった。家庭での話の種になることが期待できる。



うどんがでてくる～



いっぱい詰めるぞ～！

尚、両コースに共通して以下の活動を行った。

・ オリエンテーション

キャンプ初日、佐賀と福岡より来た子どもが揃ってから実施した。三瀬中鶴地区は中鶴公民館、富士町関屋地区は関屋公民館又は公民館の隣に立地している講堂で実施できた。初めて合う友達の前で緊張が見られたが自己紹介をし、班分けを行った。また、班の中で班長・保険係・食事係・生活係と役割を決め、子ども達の責任感と自主性を育む仕組みをつくった。



わくわく！ドキドキ！



自己紹介するのか～恥ずかしいな～

・清流川遊び大会

キャンプ初日、昼食をとった後に実施した。三瀬中鶴地区は中鶴公民館の裏手に流れる川で遊んだ。流れは緩やかだが、川幅は5～6mあり、深みがあるところにはサポーターを配置し安全管理の徹底に努めた。

富士町関屋地区は公民館前に流れる川幅2m程のクリークで活動を行った。透明度が高く、メダカやゲンゴロウなどの水生生物が多く見られ、生き物採集に熱中する子どもも多かった。水深は60cm程で参加児童にとっては丁度良い深さであった。川と関屋公民館の間に道路があるので、車の往来に注意した。

今回のキャンプのメイン企画の一つであり、子ども達を書いた感想文では川遊びの思い出がとてもよく印象に残っているようであった。



川遊び楽しい～！！



自然の川には魚がいっぱいだ

・命の勉強（富士）

今回のキャンプのメイン企画の一つで、命の勉強を実施した。富士町では毎年、地域の方の協力で生きた鶏を捌き、調理までを行った（鳥の捌きは刺激が強いため、見ることができない児童は公民館で餃子作りのプログラムを行った）。毎年行っているプログラムのため、命の勉強を目的に当キャンプに参加する子どももいた。鶏肉が食べられなくなるような衝撃を受けるか懸念されたが、湯通しした鶏の羽をむしる作業の手伝いも行った。鶏を捌き、焼き物や揚げたりし、骨も出汁を取りスープを作った。感想文をみると、高学年の参加者は勉強になり良かったとの声も多かった。



毛をむしるのは初めてだな～



いつも見ている肉になってきた～

・ラジオ体操

キャンプ2日目6時30分から生放送のラジオでラジオ体操を行った。（2泊3日の子どもは3日目も同様に行った）。朝起きて、布団の整理と着替えを終えてすぐのプログラムでまだ寝ぼけている子どももいたが、一日中動き回るキャンプの最初の運動として大事な意味を果たせた。



生活係さんは前でお手本になりましょう



朝から元気いっぱいラジオ体操

・勉強タイム

キャンプ2日目の午前中の一時間ほどを各自持参した宿題の勉強時間に充てた（2泊3日の子どもは3日目も同様に行った）。サポーターに勉強を見てもらい、学習指導を行った。



勉強やるときはやる男です！



ちょっと疲れた～

・山の創作体験

最終日、勉強タイムを終えた後、北山少年自然の家と森林学習展示館より協力の下、三瀬中鶴地区のBコースと富士町関屋地区の2泊3日の子ども達はムクロジフクロウストラップ作りを行った。ビーズや布、紐の色選びから始まり、紐に一つ一つ通し、どんぐりに好きな顔を描き、完成という工程だ。作業工程は単純ではあったが細かい作業があったためサポーターが付き添い完成させた。完成したら早速水筒などにつけてお土産として持ち帰らせた。

三瀬中鶴地区Aコースでは、農家民宿具座より協力の下、ペットボトルピザ作りを行った。測った材料をペットボトルに入れ、日に当てながらペットボトルを振って発酵させた後、生地を好きな形に伸ばしトッピングをし、石窯で焼いて完成させた。発酵している段階を手元で感じながら活動を行えた。



もうすぐ完成～



みんなでフリフリ～

・そうめん流し

最終日に昼食を兼ねて実施し、中鶴地区の地域の方がそうめんの流しの台の準備をし、それを期間中繰り返し使用できるようにした。そうめんの他にミニトマトやブルーベリーなど地元で収穫された食材を流し、大変好評であった。そうめん流しでは毎年恒例の先頭争いが勃発します。器から溢れんばかりのそうめんやおにぎりをおなか一杯食べた。使った器はもちろん自分たちで洗った。流しそうめんを初めてしたと言う子どもも多く感想文を見ても大好評であったことがわかる。



いっぱい食べるぞ～



このトマトを流すぞ～

・清掃活動

清掃活動に関しては、期間中、自分達が使ったところということで、自ら進んで一生懸命清掃活動に臨んでいた。各班決められたエリアを掃除し、高学年が主体となって班員を引き連れて頑張っていた。



ゴミいっぱい落ちてるな～



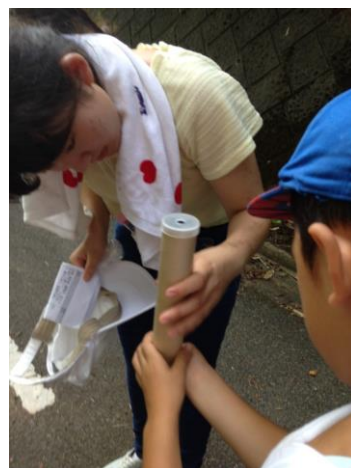
ブルーシート畳むの大変だな～

・どんぐり村・北山少年自然の家

各コースの最終日に公民館を出発した後、2時間程度のアクティビティを実施した。キャンプ最後のプログラムである。日差しが強いため水分補給や体調の変化に注意した。中鶴地区の場合はどんぐり村へ行き、子供プール、動物エリアで活動した。関屋地区の場合は北山少年自然の家へ行き、万華鏡作りを行った後、外でウォークラリーを行った。万華鏡作りは初めて導入のプログラムであり、子ども達が楽しんでもらえるか心配であったが、そのような心配も裏腹につくった万華鏡を見せ合うなど十分楽しめたプログラムであった。最終日では子ども同士の輪もしっかりとしたものとなっており、上級生が下級生の手を握り先導する場面も見られた。



どんぐり村の妖怪だ～



この花入れたら綺麗な～

6. 事業の反省と総括

(1) 反省

① サポーターへの事前研修不足

昨年の反省点でも挙がっていたが、今年は当日に初対面同士のサポーターが多い中、活動を行うことを避けるため、事前懇親会を説明会の後に開催した。しかし、懇親会の参加者は少なく当日の運営の円滑化に繋がったとは言い難い。懇親会に多くのサポーターが参加できるような配慮が必要であった。サポーターにプログラムの事前準備に参加してもらい当日、活動を行いやすくするために富士町関屋地区で使用した布団の天日干し作業やペットボトルピザの試作会の参加を呼びかけた。参加したサポーター同士は連携向上につながったと言える。事前研修内容を明確にし、参加サポーターへの呼びかけを早く行うことや懇親会への参加率向上も大事である。また、当日のサポーターが何をすべきなのかを明確にし、毎年参加のサポーターには初めてのサポーターに指示出しもできるようにすることで運営が円滑になると考える。

② 忘れ物の確認不足

前回の反省を生かし、公民館出発の際に忘れ物を全体の前で確認を行った。しかし、名前なしのものや大広間以外に置いてあるものまで把握ができず忘れ物は昨年よりは少なくなったものの、やはり多かった。持ち物の名前の記入の徹底、忘れ物を確認する際に全体をサポーターに見てもらうことが望ましい。また、一時的ではあるが、前日からの宿泊組と当日新しく来た宿泊組の荷物が公民館内で一緒にいることがあったため、混同しないように公民館の隅に分けるようにした。

③ アクティビティの準備不足

釣りや虫取りは時間が空き次第行わせていた。釣竿の準備が間に合わなかったため釣りをできた子供は少数である。三瀬中鶴地区では地域の方の協力のもと釣竿の準備が円滑に進んだ。富士町関屋地区では男性サポーターも少なく釣竿3本ぐらいの準備に留まった。釣りを楽しみに来る子どももいるため、準備の段取りやリスクマネジメントなどの対策が必要である。

④ アクティビティの注意点の共有不足

子どもの就寝後、毎日サポーターミーティングを行った。ルールが統一できていないため子供への注意の仕方にもサポーターに戸惑いが見られた。事前にアクティビティごとにルールを決めてサポーターに共有していく必要がある。

⑤参加者募集チラシ配布学校の分析の必要性

今回の参加者募集にあたり、佐賀市小学校全校と福岡県城南区、早良区の小学校に募集のチラシを配布した。泊まる場所や安全管理の問題もあり、参加者受け入れには限度がある。募集を開始し、わずか2週間ほどで定員に達した。その後も申し込みは数多くあり、やむなくキャンセルとした。キャンセルが多く出るためチラシの枚数や配布学校の検討が必要である。

(2) 総括

この事業は、地元住民のたくさんのご協力を得たからこそ、実施することが出来た。当事業の成果として第一に、大きな怪我もなく、参加者である子ども達がこのキャンプを通じて、精神面で大きな成長をしたことがあげられる。例えば食事面に関して、いつも以上におかわりをして食べる様子や、苦手な食べ物を周りの子ども達と切磋琢磨し、頑張って食べる様子が見受けられた。さらに、茶碗洗いなどの片付けも子ども達自身で行った。最初は洗いに苦戦していたが、徐々に上手になり、最終日には低学年でも上手に洗えるようになった。人見知りの子供や一人で参加した子供も初日は緊張していたが、一緒に生活していく中で友達を作り、笑顔が見られるようになっていた。このように自主的に集団生活行動を、積極的に取組んだという、当事業の彼らに与えた影響は、大きいものであったといえる。また自然体験活動においても、普段の生活では、なかなか経験できない現代の子ども達にとって、新鮮な体験かつ自然の面白さや人と自然との共生を考える貴重な体験であったといえる。鶏の捌きなどを体験した子供達は残さず食べることの大切さ、食事の合掌の意味を理解したのではないかと感じた。また、日常のお世話をさせていただいた地域住民との交流は、子ども達にとって良い機会となったと感じる。

第二の成果として、この地域は過疎化・高齢化の集落であるが、子どもたちの声などが響くことで地域内では自然と集まる場所になり、年配者の人たちも自然と笑顔になっていた。当事業実施期間中、地域住民が「久しぶりに子ども達の歓声を聞いた」「久しぶりに地元が賑わった」など、子ども達の滞在を非常に喜んでいただいた。さらに、集落の自然資源を生かした流しそうめんの道具作りや魚釣りなどといった自然体験活動や、地元で取れた野菜を使った地産地消料理づくりなどを、子ども達に指導してもらった。このように地域住民にとっても、集落の良さを改めて見つめ直す機会となったと共に、子ども達と心の交流を図る良い機会になったといえる。

キャンプ終了後、参加者に感想文を書いてもらった。その中では、「楽しかった。来年もまた参加したい」「もっと長く泊まりたかった」「また来たい」という積極的な声が多くあがっていた。また「自然は凄いと思った」「初めて魚釣りをした」「こんなにキレイな星が見られて感動した」など自然体験への感動を綴る子供達も多く見られた。

以上のことから、当事業実施の目的であった、都市農村交流による地域活性化、そして学びある健全な青少年育成のための事業として、キャンプ事業の意義を感じることが出来た

といえる。この事業を一時的事業とせず、今後も継続して行うことで、都市農村交流の意義を佐賀県内・福岡市内で高め、推進させてゆきたい。

最後に、当事業にご協力いただいた皆様に大変感謝を申し上げる。

アンケート結果

佐賀県 金山小学校 6年生 女の子

・命の授業ではいつもあたり前のように食べているものが動物の命を殺して食べているのだと知りました。物の一つ一つに感謝して食べようと思いました。来年は参加できませんが夏休みの思い出の1ページとして大切にします。

佐賀県 勸興小学校 5年生 男の子

・落雁作りを初めてしました。いろいろな人と話ができて良かったです。またやりたいと思った。また来たい。

佐賀県 神野小学校 3年生 女の子

・一人で来たので最初は不安だったがだんだん友達ができて良かったです。

福岡県 七隈小学校 5年生 男の子

・鶏を捌いてから食べるのは初めてでドキドキしながら見ていました。いい体験をしました。

福岡県 室見小学校 1年生 男の子

・初めて釣りをしました。釣れるか不安だったけど最後に釣れたので嬉しかった。

福岡県 西新小学校 1年生 女の子

・川に入り、ガマガエルやオタマジャクシ・メダカなどいろいろな魚を取りました。最初は怖かったけど友達と一緒に取りました。また、行きたいです。

福岡県 日新小学校 3年生 女の子

・スイカわりが本当に割れて楽しかった。